

20

お世話には子供も知りません。自分代災害にあつた時にまことに、私はうちを守つてくれていた。活動を見て心を打たれた。自衛隊が災害時にテレビに映し出され、自衛隊の縣心命な救助活動を見ていた。多くの人に見えていた。私はうちを守つてくれていた。當時はまだ知らない。自分代災害にあつた時にまことに、私はうちを守つてくれていた。活動を見て心を打たれた。自衛隊が災害時に

15

記事にもあるように、私の自衛隊に対する想いが変わったのは、遠いもののように思つていた。記事にもあるように、私は自衛隊に対する想いが変わったのは、遠いもののように思つていた。

10

に武器を使うことに対する想いが、全くの不保持を強調していなかった。自衛隊は自分とは関係のないところから、單純な嫌悪もある。長年、自衛隊は自分とは関係のないところから、單純な嫌悪もある。

5

私は以前は自衛隊というものに対して、先入観があり、た。完璧主義に統率された軍隊やハーネス訓練のイットジから、自衛隊は恐いものとの大切さに戦力の不保持を強調していなかった。憲法でも平和の大切さを理解していなかった。誰がために、「」の記事を読んで

10

20

題名	
□ 年	
□ 組	
□ 番	
名前	

10

20

20

15

10

性をこの記事を読んで再認識した。

ほな、隣員を止めての個を見ることの重要

とを忘れてほなはい。自衛隊という組織で

アハスのはまざれもなく人間ほめたといふこ

メージしてしまいかちたが、自衛隊も構成し

アハスのはまざれもなく人間ほめたといふこ

アハスのはまざれもなく人間ほめたといふこ

アハスのはまざれもなく人間ほめたといふこ

アハスのはまざれもなく人間ほめたといふこ

題名

年  組  番 名前

# 誰のために



## ⑥ 国民の日

いつもとは違うラッパの音が、陸上自衛隊習志野駐屯地(千葉県)に響いた。一九八五年八月十三日、お盆の早朝。第一空挺団の小隊長だった岡部俊哉は、出動命令を告げるそのラッパでベッドから飛び起きた。

命令は、日航ジャンボ機が墜落した群馬県・御巣鷹山での救出活動だった。乗客乗員五百二十四人。岡部は当時二十六歳。緊張した顔の部下たちに「任務を全うせよ」と訓示してへりに乗り、六機編成で現場に飛び立った。

上空から見る御巣鷹の尾た樹木やむき出しの岩に、

いつもとは違うラッパの音が、陸上自衛隊習志野駐屯地(千葉県)に響いた。一九八五年八月十三日、お盆の早朝。第一空挺団の小隊長だった岡部俊哉は、出動命令を告げるそのラッパでベッドから飛び起きた。

命令は、日航ジャンボ機

が墜落した群馬県・御巣鷹山での救出活動だった。乗客乗員五百二十四人。岡部は当時二十六歳。緊張した

五十五歳になった岡部は当

時を振り返る。

ヘリから降りたとき、地面にあつた犠牲者の耳を踏んでしまった。なぎ倒され

# 認められない悔しさ

ロープ伝いに降り立つたそ

の尾根は、さすに想像を絶

して「地獄だった」。

ただ、ジョンはこう思

う。「国民のために尽くす

女性四人が生きていた。そ

の一人、十二歳の少女に毛布を掛け、懸命に励ました。

「頑張れよ」。かすかにうなずいた少女を部下が抱きかかえ、上空で待つへりに

つり上げた写真や映像は、時、自衛隊は発足三十一

年。六十年を迎えた今と違

変わり果てた人の体が散らばっていた。後回しにせざるを得ない遺体の搬送。心中で「申し訳ありません」と謝りながら、絶望の尾根で生存者を捜した。

た岡部に、同僚は「目つきがおかしいぞ」と言った。夜、アパートの窓の外に、現場で見た犠牲者が次々に立った。一ヶ月近くなき

でも、光が見えたのは一瞬だった。おびただしい数の遺体をヘリに乗せてふもと運ぶ任務を終え、出発から一日後に駐屯地に戻った岡部に、同僚は「目つきがおかしいぞ」と言った。

でも、光が見えたのは一瞬だった。おびただしい数の遺体をヘリに乗せてふもと運ぶ任務を終え、出発から一日後に駐屯地に戻った時代。「あの現場で俺たちがやったことは何だったのか」。岡部は悔しくてまらなかつた。

名前

當時、少女を助ける自衛隊をテレビで見て、「がんばれ」と祈る少年がいた。事故から二十九年。自衛官になり、自らを「ジョン・レノン」と呼ぶ彼は、入隊後に先輩に聞かされた。「御巣鷹での活動が世間に認められなかつた悔しさは、俺たち自衛隊の語り草だ」

ただ、ジョンはこう思

う。「国民のために尽くす任務は変わっていなければ、もっと多くの命が救えたのではないか」。当然で、世の中は自衛隊を別の目で見てくれるようになつた」。その思いを強くした現場が、二〇一年三月に派遣された東日本大震災の被災地だ。

(敬称略)